

第3回川島町高齢者福祉計画及び介護保険運営推進協議会・川島町地域  
包括支援センター運営協議会会議録

会議名	平成26年度 第3回川島町高齢者福祉計画及び介護保険運営推進協議会・川島町地域包括支援センター運営協議会
開催日時	平成26年10月16日(木) 午後1時30分～3時00分
開催場所	川島町役場第2庁舎第1会議室
議 題	(1) 平成25年度川島町介護保険特別会計決算 (2) 川島町介護保険運営状況について (3) 日常生活圏域ニーズ調査分析結果について (4) 川島町高齢者福祉事業実施状況及び次期計画について
出席者	●被保険者代表 鈴木委員、發知委員、町田委員 ●サービス事業者 山下委員、関口委員 ●知識経験者 佐藤委員、亀田委員 ●福祉保健関係者 村上委員、小林委員、櫻井委員 ●事務局 小澤課長、内野主幹、吉田主査、柴生田主任、倉持主事
傍聴者	なし
配布資料	資料1 平成25年度介護保険特別会計決算について 資料2 川島町介護保険運営状況について 資料3 日常生活圏域ニーズ調査分析結果について 資料4 川島町高齢者福祉事業実施状況及び次期計画について
審議等の内容又は概要	(1) 平成25年度川島町介護保険特別会計決算 ・決議事項、結論なし (2) 川島町介護保険運営状況について ・決議事項、結論なし (3) 日常生活圏域ニーズ調査分析結果について ・決議事項、結論なし (4) 川島町高齢者福祉事業実施状況及び次期計画について ・決議事項、結論なし
質疑応答	(1) 平成25年度川島町介護保険特別会計決算 委 員：歳入歳出について、前年度と比較した増減を説明してほしい。 事務局：歳入対前年度比、保険料106.5%、国庫支出金109.3%、支払基金交付金108.2%、県支出金103.3%、財産収入249.0%、繰入金115.2%、繰越金65.4%、諸収入251.2%。歳出対前年度比、総務費96.1%、保険給付費107.2%、地域支援事業128.4%、基金積立金287.6%、諸支出金16.5% (2) 川島町介護保険運営状況について 委 員：地域密着型サービスは未だ町では整備していないとのことだが、将来的

な計画をどのように考えているのか。

事務局：法律上は既に実施しているサービスだが、町では基盤整備を行っていない。しかし地域包括ケアシステムを構築する上では整備が必要となってくるサービス内容であるため、第6期介護保険事業計画内では基盤整備を行うよう、話し合いの上計画したい意向。

委員：最近町内で空き家が増えている。それを活用して地域密着型サービスを実施する計画を検討できないか。

事務局：地域密着型サービスはある程度の基準を持っているので一概には言えないが、ひとつの検討材料としたい。また、時期計画より整備を図る「新しい総合事業」においては、地域での活動が不可欠となってくることもあり、そちらの事業整備に当たっては空き家の活用を積極的に検討したい。

委員：介護保険でも住宅改修の事業があるが、最近取えてバリアを残して介護予防に努めるといった施設の話聞く。町でもそのようなサービス提供が考えられないか。

事務局：一事業所のサービス構築やハード面の整備に町が細かく関与することは難しいが、ひとつの意見として頂戴する。

委員：介護保険で実施している訪問リハビリや通所リハビリについて、リハビリとは名ばかりのサービス内容である印象。医療側からしてみると、もっと本格的なリハビリを実施してもらいたいと思う。町から事業所に対して指導が行えないか。また、医師として事業所に意見を提言してもよいものか。

事務局：介護事業所の許可権者は都道府県であり、都道府県は法上の基準を遵守しているかどうかに対して指導を行う。サービス内容についても法上の基準を満たしているかどうかに対して指導を行っており、効果の是非については指導対象となっていない。町としても、適正な事業運営についての意見や指導を行うことはできるが、リハビリの効果の程について指導を行うことは難しい。ただし、今後の介護保険事業を考える上でリハビリが重要な位置付けになることは最もなので、今後整備しなければならない「新しい総合事業」において、リハビリ職を活用した介護予防事業を実施していきたいと思う。

### (3) 日常生活圏域ニーズ調査分析結果について

委員：地区別の分析結果を行ったとのことだが、地区別回答者数が少ない中で、本当に実態を反映できた調査と評価できるのか。実際の現場の状況について地域包括の目から見える印象を教えてほしい。

事務局：今回の分析結果では、全体的に小見野地区が低い結果となっているが、例えば介護予防事業の勧誘を行っても小見野地区の住民は参加意欲がやや鈍い印象。一方、今回の分析結果では全体的に八幡地区が高い結果となっているが、八幡地区についてはどこよりもいち早くハッピー体操を始めたり、地区単位での介護予防活動に取り組み始めるなど、積極的な

姿勢がある印象。あくまで主観だが。

委員：町全体の分析結果の1つである項目別リスク分析のうち、運動器については75～79歳女性の結果が突出して高く、閉じこもりについては80～84歳男性が突出して低い結果。何らかのバイアスがかかってはいないか。

事務局：再度調査結果を確認し、調査結果の傾向について次回の協議会で改めて回答する。

(4) 川島町高齢者福祉事業実施状況及び次期計画について  
質疑なし

署名	亀田 緑
	関 孝 考